

## 児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2020年 2月 8日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」近江八幡駅前校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・4コマ同時支援ができるように駐車場を4台分確保した。</li> <li>・ホワイトボードを購入し環境整備を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4コマ同時支援の際にスペース確保など、不十分な点があるため、4月までには改善できるようにしていく。</li> <li>・同時支援の時には、指導員で、静と動の時間を統一するなどプログラム内容を工夫していく。</li> </ul>
	②	職員の配置数は適切である	○			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている		○		
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼の定例化やミーティングの時間内で、気づいた点などを共有し、改善をしていく。</li> </ul>
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後関係機関との連携を強化し、業務の改善へとつなげていく。</li> </ul>
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の内部研修や、他校舎との情報交流などを行い、資質向上に努めた。</li> </ul>	
適切な	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリングを適宜行い、反映した個別支援計画作成を行う。</li> </ul>

支援の提供	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		・NC プログラムなどのアセスメントツールを確認し、今後十分に活用する。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている		○			
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている		○			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている		○		・朝礼などを使って振り返りを行い、他者の意見を受けて、次の支援へつなげている。 ・イベント時は内容を全員で協議している。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○		・よりよい支援のために新たな教材の確保など行っていく。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している		○			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○		・朝礼の時間を確保している。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		・翌日の朝礼で行い、職員で共有している。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている		○			
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している		○		・モニタリングを適宜行い、反映した個別支援計画作成を行う。	
	関係機関や保護者と	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		○		
		㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○		・定期的に訪問を行う。
㉓		（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		対象児童は利用されていないが、今後利用されることがあった際には、連携を図っていく。	

の 連 携 関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	②④	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○			・対象児童は利用されていないが、今後利用されることがあった際には、連携を図っていく。
	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		・時間を確保し、関係機関との連携を図っていく。
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		・時間を確保し、関係機関との連携を図っていく。
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		・県の障がいスポーツ協会主催のスポーツ広場の参加を募った。 ・市主催の子育てフェスに参加した。	・情報を収集しながら、今後も引き続き参加をしていく。
	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		・圏域の市が主催しているサービス調整会議に、管理者が参加しているが、内容の共有までできていないため、今後は周知できるようにする。	・今後も引き続き会議には参加する。
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		・支援中に保護者に参加していただいたり、フィードバックでお話したりはしているが、今後は、「きらりカフェ」などで、行っていく。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			・支援後のフィードバックなどで行っているが、今後さらに充実できるようにしていく。

	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			・保護者会や父母の会などは、ないが、それに代わる「きりりカフェ」などを開催して、保護者との連携の場とする。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・きりり通信やラインなどで発信している。	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	○		・地域や関係機関へ広報活動を行っていく。
非常時等の対応	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・入所時の受付シートなどを使って確認している。	
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			
	④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

## 児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2020年2月8日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」近江八幡駅前校

保護者等数（児童数）：16 回収数：12 割合：75%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	7	4	1	0	もう少し広いと良い。	・4月までには改善できるようにしていく。 ・同時支援の時には、指導員で、静と動の時間を統一するなどプログラム内容を工夫していく。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	10	0	0	2		
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	9	1	0	2		
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	9	2	0	1		
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	10	2	0	0		
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	9	0	0	3		
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	10	2	0	0		
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	10	2	0	0		
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	5	2	2	3		
保護者への説明	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	12	0	0	0		
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	9	0	0	3	・入所時のみ説明あり。	・定期的なモニタリングを行う際に伝えていく。

明 等	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	4	4	3	1		
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	12	0	0	0		
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	10	1	1	0		
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	3	2	2	5		
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	11	0	0	1		
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	12	0	0	0		
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	8	2	0	2	・HP 見ていない	・教室掲示やラインなどで発信していく。
非 常 時 等 の 対 応	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	12	0	0	0		
	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	4	3	0	5	・訓練にあたったことなし。	・避難訓練の通知を教室掲示するなどしてお知らせするだけでなく、行った訓練の結果を知らせる。また、児童が参加していただけるような計画を立てる。
満 足 度	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	3	1	2	6		
	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	10	1	0	1		
	㉓	事業所の支援に満足しているか	9	3	0	0		

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。